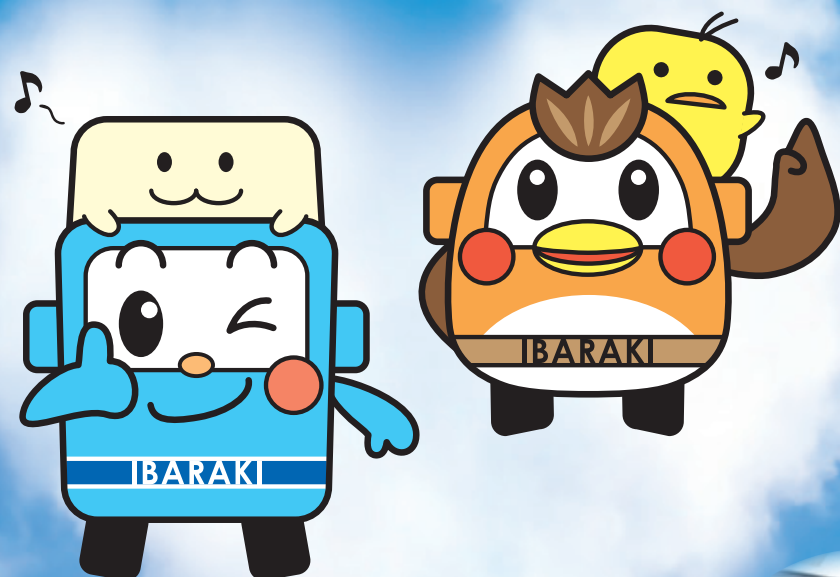


レインボー ウェイ



一般社団法人 茨城県トラック協会



レインボーウェイ 2024

C O N T E N T S

一般社団法人 茨城県トラック協会

P.04 茨城のくらしと産業を支える物流最前線

プラモデルやキット、塗料などの輸出入貨物の物流や、タンクローリーで酢の原料の工場間輸送などで地元産業を支える

P.06 働きやすい職場認証で労働環境改善を推進

若い人に魅力ある職場作りの一歩として働きやすい職場認証を取得、次は健康経営優良法人認定の申請も準備中

P.08 安全に取り組むトラック運送業界

貨物自動車運送事業は安全第一が基本、Gマークの一般社会からの認知度はまだ低いですが、会社の姿勢を打ち出すためにもGマークを取得

P.10 環境にやさしいトラック運送業界

SDGsがクローズアップされている中で運送事業者にはできることは何か、グリーン経営認証取得で貢献し同時に会社のアピールも

P.12 茨城の物流を担うエッセンシャル・ワーカー

ママ友の女性ドライバーの紹介で入社し建築資材配送に従事「土日は書道教室を開いています」という書道師範の顔も佐藤裕美(さとう・ひろみ)さん

同じ高校から昨年春に新卒で入社し現在は野菜の集荷に従事大型免許が取得できるようになったら大型車に乗務したい沼田惇哉(ぬまた・じゅんや)さん
根崎裕太(ねさき・ゆうた)さん

P.14 社会との共生

県民が一体となって物流危機を乗り越えよう!
「持続可能ないばらきの物流構築のための共創セミナー」開催

P.15 会長からのメッセージ

荷物が運べなくなる危機「2024年問題」を乗り越えるには、県民のみなさまのご理解とご協力、そして若い人たちの力が必要です
一般社団法人 茨城県トラック協会 会長 小倉邦義

写真:石切山脈(笠間市 株式会社想石)

茨城のくらしと産業を支える 物流最前線

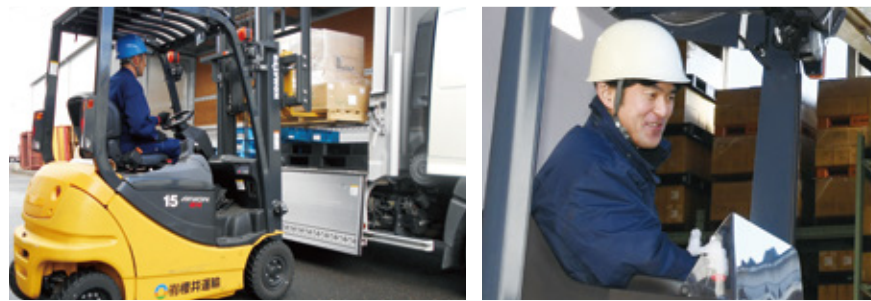
プラモデルやキット、塗料などの
輸出入貨物の物流や、
タンクローリーで酢の原料の
工場間輸送などで
地元産業を支える

茨城県トラック協会には約1600の事業者が加盟しています。これらの事業者は県内の工場で作られた荷物を運んだり、外国から県内に入ってくる荷物や県内から外国に運ばれる荷物などの輸送を担っています。そのような協会加盟の事業者を訪ねて、どのような仕事をしているかを聞きました。古河市にあるこの事業者は、輸入されたプラモデル、キットや塗料の国内輸送、また輸送の仕事をしていました。また、タンクローリーで酢の原料を工場間輸送したり、中古タイヤの倉庫保管などの仕事をしています。

この運送会社は国道4号線の近くにあり、トラック運送と倉庫業を行っています。

いろいろな荷物を取り扱っていますが、その中の一つにプラモデルやキット、プラモデル好きの人が自分で色を塗るための塗料などがあります。

このプラモデル関係の取引先は商社で、取り扱っている商品はミリタリー系のプラモデルが多いそうです。輸入と輸出があり、輸入品のプラモデルは主に東京港から陸揚げされ、この会社の倉庫まで持ち込まれます。反対に輸出されるプラモデルは、自分の会社のトラックや委託した運送



会社のトラックで主に横浜港に運んでいます。また、塗料はメーカーの工場まで引取りに行ったり、塗料メーカーが委託した運送会社のトラックで持ち込まれたりしています。この事業者は、一般家庭で消費されている酢の原料になる濃縮された酢をタンクローリーで運ぶ仕事もしています。利根川のかいかい側の五霞町にある取引先の工場から、濃縮酢をタンクローリーに積んで関東甲信越、静岡、仙台、山形、福島、新潟などの食品工場に運んでいます。

その他にもこの会社の倉庫では、中古のタイヤを預かり、いろいろな運送会社に委託して全国に発送する仕事もしています。運送以外でも、工場や学校などで使われる大型の送風機のレンタルや販売などもしているそうです。

保有トラック数は10台（そのうちタンクローリーが4台）ですが、以前から労働時間の短縮に努め、1カ月の残業時間は10時間以下になっている、ということです。



働きやすい職場認証で 労働環境改善を推進

若い人に魅力ある
職場作りの一歩として
働きやすい職場認証を取得、
次は健康経営優良法人2024
認定の申請も準備中

働きやすい職場認証制度は、自動車運送事業者（トラック・バス・タクシー事業）の就職を促進するために、運送事業者の職場環境改善の取り組みを見える化する認証制度です。国土交通省が2020年8月に創設して、認証実施機関の指定を受けた団体が審査、認証を行っています。認証取得には、①法令順守等、②労働時間・休日、③心身の健康、④安心・安定、⑤多様な人材の確保・育成について、要件を満たす必要があります。認証には一つ星と二つ星、三つ星があり、一つ星から取得して二つ星を目指すようにします。

水 戸市にあるこの運送会社は、昨年1月に働きやすい職場認証の一つ星を取得しました。

この事業者は、トラックの部品を埼玉県から引き取って県内のトラックディーラーの営業所に配送する仕事や、いわき市にある工場で作られたプラスチック原料が預けられている倉庫から引き取って、関東一円（遠くても富士市）のプラスチック製品の工場に運ぶ仕事、茨城町から建設機器の分解された機材を積んでひたちなか市や小山市（栃木県）に運ぶ仕事などを行っています。また、学校給食用のパンを日立市や土浦市、つくば市の学校に配送する仕事もしています。



保有するトラックは2トン車から大型トラックまで29台です。
このような中で2022年4月から、銀行に勤めていた後継者が会社に入ってきました。そこで銀行とは労働環境が大きく違うことを痛感しました。職場環境を変えないと若い人は入社してこないと考え、ホームページを作りましたら、たちまち応募者が増えました。その時に入社した1人は20歳代の人です。

職場改善の第一歩として働きやすい職場認証の一つ星を昨年1月に取得し、次は二つ星を目指しています。このように職場改善に努めながら、順次、各種の認証や認定を取得していく計画です。現在は健康経営優良法人認定の申請を準備中です。

この事業者は労働環境の改善を進めながら、魅力ある職場作りを目指しています。





貨物自動車運送事業は安全第一が基本、Gマークの一般社会からの認知度はまだ低いが会社の姿勢を打ち出すためにもGマークを取得



日 立市にあるこの運送会社では、自動車に使われているネジの輸送をメインに、電子部品も運んでいます。自動車部品の取引先はひたひたにある工場、この工場の本社は愛知県にあります。ひたひたの工場で製造されたネジを、愛

なかにあるネジの製造工場と契約をしていました。しかし、一昨年の11月から、愛知県の本社との契約に替わりました。おそらく「2024年問題」といわれるトラックドライバーの労働時間短縮に向けた取引先の対応の一環と思われる。

実際に、今年4月からの「働き方関連法」による残業時間規制や「改正改善基準告示（ドライバーの拘束時間や運転時間、休息、休憩時間などを示した規則）」をクリアするために、中間地点に中継基地を設けてドライバーが交代勤務するような運行方式に変更されます。このような一連の流れの中で、ISOやGマーク、グリーン経営などの認定、認証の取得状況などについても取引先から話が出ました。

これまでも安全などには問題なく事業を行ってききましたが、この事業者は安全性優良事業所（Gマーク）認定を昨年1月に取得しました。一番の願いは、Gマークに対する社会的認知度が高くなることだといっています。



安全性優良事業所（Gマーク）は、①安全性に対する法令順守の状況、②事故や違反の状況、③安全性に対する取り組みの積極性の3項目の評価が一定の点数以上で、その他の必要な要件もクリアすると、全国貨物自動車運送適正化事業実施機関が認定する制度です。安全性優良事業所（Gマーク）の認定を取得した事業所に所属しているトラックには「G」のマークのステッカーを貼ることができます。Gマーク認定には有効期限があつて、継続するには更新申請が必要です。

知県の本社に運び、帰りは空になった通い箱や台車、カンバンなどを積んで帰ってきます。

保有しているトラックは大型車が6台、4トン車が3台、それにバン車が3台です。

この事業者はずっと昔からひたち





環境にやさしい
トラック運送業界



SDGsがクローズアップされている
中で運送事業者にできることは何か、
グリーン経営認証取得で貢献し
同時に会社のアピールも

グリーン経営（環境負荷の少ない事業経営）は、ISO14031（環境パフォーマンス評価に関する国際規格）の考え方に基づいて、環境保全のために必要な項目や目標を設定して、一定レベル以上の取り組みを行っている事業者を交通エコロジ・モビリティ財団が認証する制度です。世界的にSDGs（持続可能な開発目標）への関心が高まっていますが、17の目標のうち、7のエネルギーをクリーンに、13の気候変動への対策などはトラック運送事業者が取り組むSDGsといえます。



関東一円の現場です。
このような中で、この事業者はトラック運送業界向けの様々な認定、認証制度などの客観的品質の取得に力を入れているといえます。会社の姿勢をアピールするためです。
そのため安全性優良事業所（Gマーク）認定は2011年とかなり早い段階で取得しました。さらに一昨年の6月にグリーン経営認証も取得しました。グリーン経営認証を申請したのは、SDGs（持続可能な開発目標）がクローズアップされてい

るからだといえます。運送事業者としてできるSDGsは何かと考えてグリーン経営認証を取得することにしたのです。
この会社では以前からデジタルタコグラフで燃費などを管理して省エネ運転などに努めてきました。そのためグリーン経営認証に際しても、何ら問題がなかったといえます。
今後は健康経営優良法人認定をはじめ、様々な客観的品質の取得を進めていく方針です。

この運送会社は日立市にあり、ウィング車や平ボディ車などの大型車や4トン車、それにワンボックス車を含め24台を保有して事業を行っています。主な輸送荷物は電線ケーブルで、その付属品の段ボールや部品なども運んでいます。
取引先の電線工場は近くに3カ所あります。これらの工場から電線ケーブルを積んで、主に現場に輸送します。夕方に荷物をトラックに積んで、翌朝には現場に届けるというのが基本的なパターンで、輸送先は主



ママ友の女性ドライバーの紹介で入社し建築資材配送に従事

「土曜日は書道教室を開いています」という書道師範の顔も

佐藤裕美（さとう・ひろみ）さん



「トラックドライバーはカッコ良いと思っていました」という佐藤裕美さん。しかし、「キツカケがなく、物流センターでフオークリフトでの作業をしていました」。小学生と3歳の2児のお母さんでもあります。そのママ友の1人が、現在働いている運送会社で女性ドライバーをしていました。その紹介で古河市にある現在の運送会社に入社したといいます。ところが運転免許はオートマ限定だったので、急いでマニュアル車にも乗れる運転免許を取得しました。



トラックドライバーの仕事は初めてでした。「マニュアル車には乗ったことがなかったのですが、それだけが最初は不安でしたが仕事にギャップのようなものはありませんでした」。入社してまだ間がないのですが、現在は4トンウィング車に乗務して内装材などの建築資材を建築現場に運ぶ仕事をしています。

この運送会社には4トン車や大型車など40台のトラックがあります。ドライバーは30人で、そのうち女性ドライバーは佐藤さんと、佐藤さんを紹介してくれたママ友でもある女性ドライバーの2人です。佐藤さんの仕事は建築資材の輸送ですが、朝8時に出社して点呼などがすんだら荷主のセンターに行つて荷物を積みまします。荷物は荷主の作業員が



積んでくれます。配送先は関東一円の建築現場ですが、埼玉県や千葉県現場が多いといいます。その日によって納品先が違いますが、佐藤さんは「グーグルで道路を調べて予測し、道路幅まで分かるナビで納品場所の条件などを調べています」。

古河市出身の佐藤さんは、「5歳から書道を始めて19歳で師範を取りました」。書家名は「牡丹」で、土曜日は書道教室を開いています。また、書道団体「無限未来」の古河支部代表でもあり、ショッピングモールその他の会場でパフォーマンスを披露しています。



同じ高校から昨年春に新卒で入社し現在は野菜の集荷に従事

大型免許が取得できるようになったら大型車に乗務したい

沼田惇哉（ぬまた・じゅんや）さん

根崎裕太（ねさき・ゆうた）さん



（沼田さん）

「小さい時から祖父のダンブが家にあり、祖父の薦めもあって就職しました」という沼田さん。一方の根崎さんは、「叔父がダンプの仕事をしていました」という。2人とも同じ高校から昨年春に新卒で銚田市にあるこの運送会社に入社しました。しかし、クラスが違い、それぞれ紹介者があって入社したので、同じ運送会社就職することは知らなかった、といいます。現在は2人とも集荷所や農家から野菜を集荷する仕事をしています。



（根崎さん）

しかし、沼田さんと根崎さんはまだ19歳。準中型免許なので、集荷所や農家から集荷してくる仕事をしています。朝8時に出社して、午前中3回、午後2回の集荷をして午後5時半ごろには会社に戻ります。

2人とも小さな時からトラックには慣れていましたが、実際に仕事となると「最初は慣れないことだらけでした」と口をそろえています。取り扱うのがメロンやイチゴ、サツマイモ、チンゲン菜、ミツバなどで、荷扱いを慎重にしなければなりません。



沼田さんは小美玉市、根崎さんは銚田市の出身ですから会社からそんなに遠くありません。市場の休みの関係から火曜日と土曜日が休みの週休2日制です。休日には「車が好きなので車の手入れをしたり、土曜日は友達と遊びます」という沼田さん。一方の根崎さんは「休みの日はゲームをしたり寝ています」。

2人とも21歳になって大型免許を取つたら、「大型車に乗務して働きたい」といいます。



発行日 2024年3月29日

発行所 一般社団法人 茨城県トラック協会

取材協力 (順不同)
株式会社 油屋運送
株式会社 久信田運送
有限会社 櫻井運輸
新栄運輸 有限会社
株式会社 想石
真崎運送 株式会社
代々城運送 株式会社

制作 有限会社 物流ジャーナリスト倶楽部

スタッフ Design by maxDesign
Photo & Text by F.Morita
(写真の一部は取材先からの提供もあります)

一般社団法人 **茨城県トラック協会**
〒310-0913 水戸市見川町2440-1
TEL 029-303-6363 FAX 029-243-5936
ホームページ <https://www.ibatokyo.or.jp>
(無断転載禁ズ)



会長からのメッセージ

荷物が運べなくなる危機 「2024年問題」を乗り越えるには 県民のみなさまのご理解とご協力 そして若い人たちの力が必要です

一般社団法人 茨城県トラック協会
会長 **小倉 邦義**



今年は1月1日に能登半島地震が発生しました。被災されたみなさまには心よりお見舞い申し上げます。

このような大きな災害などに見舞われた時に必要なのは、被災地や避難所に必要な物資を運ぶ物流です。私たちトラック運送事業者は、国内貨物輸送量の90%を担う基幹産業ですから、その責任は重大です。そこで、茨城県と茨城県トラック協会、さらに地域ごとにある13の支部でも、それぞれの市町村と協定を結んで、災害時などの緊急物資輸送の要請に応えるようにしています。

ところが私たちトラック運送事業者は現在、「2024年問題」に直面しています。昨年以來、テレビや新聞、雑誌などのマスコミでもとり上げるようになりましたので、「2024年問題」をご存じの方もいると思います。「2024年問題」というのは、現在でも不足しているトラックドライバーが4月から施行される労働時間の短縮などによって、より不足することで荷物が運べなくなる危機です。いくつかの研究所の試算によりますと2030年には30～35パーセントの輸送力が不足するとされています。

私たちトラック運送業界では、経済とくらしを守るために「2024年問題」の克服に取り組んでいます。そのためには県民のみなさまにご理解とご協力をいただくとともに、若いみなさんが物流の担い手として私たちの業界に入ってこられることを切に願っています。



トラック運送事業者だけの努力で「2024年問題」を乗り越えるのは難しいのが現状です。たとえば荷積みや荷卸しの待機時間短縮などは荷主企業の協力が必要です。あるいは食品などの日付管理の煩雑さを軽減したり、食品廃棄ロスを削減して物流現場の労働を改善するには、店頭の商品棚で前に置かれている商品から購入するなど、消費者のみなさんのご理解とご協力が必要です。

このようなことから茨城県トラック協会と茨城県が共催し、茨城運輸支局、茨城労働局、県経営者協会、県商工会議所連合会、県商工会連合会、県中小企業団体連合会、JAグループ茨



小倉弘明課長



大島弘明常務



小倉邦義会長

城、全国農業協同組合連合会茨城県本部、県消費者団体連絡会、全日本運輸産業労働組合茨城県連合会、全日本トラック協会などの後援により昨年12月4日に、つくば国際会議場で、「持続可能ないばらきの物流構築のための共創セミナー」を開催し、県民の方々など約300人が参加しました。

セミナーでは国土交通省・貨物流通事業課の小熊弘明課長、NX総合研究所の大島弘明常務が講演。その後、荷主企業からはケーズホールディングスの井坂紀臣物流部長、カスミの齋藤雅之SCM担当マネージャー、消費者代表として県消費者団体連絡会の藤原正子会長、運送業界からは県トラック協会の五来一青年部会長が登壇し、「共に創る茨城の物流と未来について」の力強い宣言をしました。最後は、トラック協会の小倉邦義会長が「荷主と事業者が話し合って信頼関係を築き、課題解決に取り組むことが重要です」と挨拶しました。



五来一氏 藤原正子氏 齋藤雅之氏 井坂紀臣氏

社会との共生



県民が一体となって物流危機を乗り越えよう！ 「持続可能ないばらきの物流構築のための共創セミナー」開催

「2024年問題」をご存じでしょうか。4月からトラックドライバーの残業時間が規制されます。またトラック、バス、タクシーなどの自動車運転者は不規則勤務や長時間労働になりやすいので「改善基準告示」で拘束時間や休憩・休息時間などの基準が設けられています。4月から「改善基準告示」が改正されます。それによって現在でも不足しているトラックドライバーがより不足なくなり、荷物が運べなくなる危機が「2024年問題」です。